

ちばけん公民館 スタッフニュース



つぎつぎと水揚げされるカツオ

新鮮なカツオ
うまいですよ!!

カツオをもとめる人でにぎわう会場(勝浦漁港荷さばき所)
カツオの試食・販売・その他多くの催しを用意してお待ちしています



わがまちじまん!! 勝浦市「勝浦港カツオまつり」

勝浦市は千葉県の南東部に位置し、市域は黒潮の北上する太平洋岸に面しており、海岸線は自然景観に富んでいます。

海の幸、山の幸に恵まれた勝浦では朝市が天正の時代から400年以上続いており、日本三大朝市の1つに数えられ、勝浦を代表する“名所”として多くの方に親しまれています。

勝浦は古くから漁業により栄え、カツオ・キンメダイ・イセエビは全国有数の水揚げ量があります。市内には8つの漁港があり、なかでも勝浦漁港はカツオの近海竿釣船の水揚げ数量で全国1、2位を争う拠点となっています。特に4月から6月にかけて、勝浦沖の海はカツオの豊かな漁場となるので、多くのカツオが水揚げされ、大変活気のある市場になります。

毎年6月上旬には勝浦港カツオまつりが開催され、新鮮なカツオの販売、試食、その他新鮮な魚介類の販売、体験入札等が行われ、毎年3万人以上の来場者があり大変な賑わいとなっています。また、市内飲食店20店舗による特選カツオ定食はそれぞれの店がオリジナルの料理を提供し大変好評です。ぜひ勝浦にお越しいただき、カツオのまちならではの様々なカツオ料理を味わってみませんか。

千葉県公民館連絡協議会

第122回主事部会研修会宿泊研修会開催

～元気な公民館、元気な公民館職員であるために～



1月20日～21日の2日間、毎年恒例の主事部会宿泊研修会が南房総富浦ロイヤルホテルを会場に開催されました。今回のテーマは「元気な公民館、元気な公民館職員であるために」ということで、地域の中で公民館が果たすべき役割、公民館職員に求められているものについて、ともに考える機会となりました。

1日目の全体会では、NPO法人あそび環境Museum アフタフバーバン代表・北島尚志さんを講師に迎え「響関する力～かかわること、つたえること、つながること～」と題して、表現遊びのワークショップと講演をいただきました。

ワークショップでは、体を使った表現で相手に意思を伝えるなど、遊びを通して人と関わりあうプログラムを体感しました。講演では、子どもを取り巻く環境に悪影響をもたらしている3つの問題「禁止のまなごし」「すぐ答えの出るスイッチ」「面白さ・

あそびの消費」に触れ、「『関わることは面倒だ』けれども、閉ざすことなく『人と関わることは楽しい』という実感を分かち合える響関者として、地域の子どもの生き合う力を育ててほしい」と熱いエールをいただきました。

2日目は、「公民館職員とは何か～その役割、これからの考える～」と題して、大東文化大学非常勤講師・片野親義さんに講演をいただきました。

冒頭、片野さんの体験談を交えたお話の中から「『専門でもない公民館に配属されて身が入らない』と言う職員は、まず自治体の職員であるという自覚が無い。即刻辞めなさい。」と発せられた言葉は、辛辣で衝撃を受けた参加者も多かったのではないのでしょうか。

そして、公民館の2つのタイプ「ただ賑やかなだけの公民館」と「公民館らしく賑やかな公民館」の例を挙げ、公民館活動【屋根】は、学ぶ権利を保障する法制度【土台】と寺中構想を基本とする理念(①民主主義と平和の理念を身につける②文化の薫り高い人格をつくる③地域に産業を興し、政治を立て直し、生活を豊かにする)【3本の柱】に支えられたものでなければならぬと、原点から丁寧に説いていただきました。

2日間のプログラムには、講師の先生や高瀬義彰、秋元淳両先輩から助言をいただきながら、グループ討議をする機会もあり、公民館の役割と職員のあり方を見つめ直す密度の濃い研修となりました。

文責：南房総市丸山公民館 杉田修一



東京湾を望む大房岬。その中ほどにある会場からは、「春の陽射しに輝く青い海」が見えるはずだったのですが・・・2日間の研修中は曇天の空模様と強風。ささやかな楽しみはなくなりましたが、すべての日程は滞りなく終了しました。

1日目の前半は参加者の緊張を解きほぐす遊びから始まり、一緒に考え、全身を使って表現するワークショップで心と体が自然と解き放される楽しい時間を過ごしました。北島さんの様々な体験にもとづく講演内容だけでなく、「人を引きつける、人をつ

なげる語りのチカラ」に多くを学んだ一時でした。後半は公民館の勤務年数別に2グループに分かれてのグループ討議。ベテラン職員の進行でそれぞれの仕事への思いを語り合いました。

2日目は途中でグループワークを挟んだ約3時間の講義の中で、公民館の変わらない理念と役割をわかりやすく教えていただくと共に、38年間公民館職員として仕事をされてきた片野さんだから言える現職の公民館職員に対する厳しく熱いメッセージ、期待を込めた激励をたくさんいただきました。公民館をめぐる状況が厳しい今だからこそ、職員一人ひとりの意識とやる気が大切なのだと改めて感じるお話でした。

参加された職員の皆さんが今の自分と仕事に向き合うことができ、明日からの糧の一つでも見つけることのできた研修であったのなら担当者としては嬉しく思います。

文責：木更津市西清川公民館
鈴木和代(主事部会長)



県公連研究委員会

こんにちは。県公連の研究委員会です。研究委員会は、各公連から集まった職員16名で構成されています。研究委員会では、「生涯学習時代における社会教育、公民館活動のあり方及び公民館連絡協議会活動のあり方に関する調査、研究並びに社会教育、公民館の歴史原理的研究を行い、その成果を単位公連に還元し、公民館の振興発展を図ること」（県公連研究委員会細則より抜粋）を目的に、昭和60年12月17日に発足しました。

研究委員会の事業は、（1）公民館に関する調査研究 （2）公民館に係る自治体行政、教育行政に関する調査研究 （3）公民館連絡協議会運営に関する調査研究 （4）成人の成長発達に関する調査研究 （5）社会教育、公民館に関する史料（資料）の収集、整理保存、活用 （6）調査・研究成果の公表及び単位公民館等に対する資料の提供 （7）その他、目的達成に必要な活動とされており、発足当初から研究成果を「研究報告書」として発行しています。

発足以来20数年を経て、研究報告書は現在19号を数えています。皆さんの職場にも、きっと並んでいることと思います。一度、手にとっていただければ嬉しいです。

さて、今年度の研究委員会も新しいメンバーでスタートし、1年がたとうとしています。任期の2年間でひとつのテーマに取り組み、来年度末に研究報告書を出すので、1年目の大きな課題は

「研究テーマの設定」になります。なにしろ、集まったメンバーは、経験年数も違えば各市町村の置かれている状況も違うので、テーマの設定も一足飛びというわけにはいきません。

毎回の会議は「各委員近況報告」から始まり、自分の担当している仕事の成果や失敗談、各市町村で抱えている課題や問題点などを出し合っています。経験豊かな職員からのアドバイスや励ましもあり、会議が和やかに進行していきます。

また、会議の会場を千葉市、君津市、酒々井町、船橋市と毎回変え、「現場の空気」も感じながら行っています。そろそろ1年がたち、おぼろげながらテーマも見えてきました。来年度は本格的に研究活動、そして執筆へと進んでいく予定です。がんばります！



文責：木更津市中郷公民館
山下要一郎（研究委員長）

初任職員研修会修了

平成21年度初任職員研修会は、千葉市の幕張公民館を会場に10月2日から月1回の開催で全5回取り組まれ、2月5日に修了しました。

今年度は全県から40名の参加があり、非常勤職員の方々の参加もあり、話し合いも大いに盛り上がりました。講師陣は県内のベテラン職員が中心で、ご自身の実践を熱く語ってくださり、質疑も多く出され好評でした。

「漠然としていた公民館のイメージや役割が、研修を機会に具体的に見えてきた」「明日に向かって自身が学び掘り下げて地域と密着した公民館となれるよう日々研鑽していきたい」などの感想が寄せられました。

県公連 平成22年度の子定

- 5月27日(木) 平成22年度県公連総会
(千葉県総合教育センター/千葉市)
- 8月19日(木)・20日(金)
第51回関東甲信越静公民館研究大会
(静岡県静岡市)
- 10月14日(木)・15日(金)
第32回全国公民館研究集会
(石川県金沢市)
- 10月～2月 県公連初任職員研修会 (予定)
- 11月 第62回千葉県公民館研究大会
(君津市予定)
- 1月 主事部会宿泊研修会 (予定)

このほか、主事部会研修会、館長部会研修会なども予定されています。詳しくは各地区公連事務局より別に配布の開催要項などをご覧ください。

まちより むらより、

心を合わせて文化を発信！「創作発表・交流展～アートな根形の私たち～」

袖ヶ浦市根形公民館 ☎0438-62-6161



11月22日、参加団体の代表者が出席して行った打ち合わせ会議。「作品の数よりも見やすさを大事にしよう」、「展示パネルの数が足りないのなら、陶芸用の机の数は減らしてスペースを作ればいいよ」、「全体のバランスは皆で譲り合って調整しよう」、そんな頼もしい意見が次々と出て、「皆で一つの展示会をつくる」という意識の高まりが感じられます。

根形公民館は、袖ヶ浦市公民館の「5館構想」の中で美術を中心とした芸術文化創造に力を入れて取り組む館として位置づけられ、陶芸や油絵等の講座を開設し、そこから多くのサークルが誕生しました。

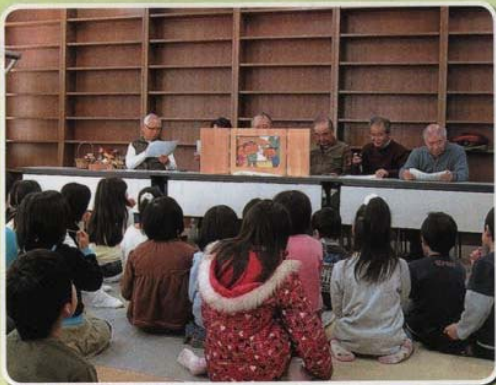
それらの団体や関係講座生の1年の成果発表の場として「修了作品展」が3月に行われてきましたが、3年前からは「創作発表・交流展～アートな根形の私たち～」という名称で行っています。今までは、作品を展示するだけの印象が強い催しでしたが、名称を変えてから、この機会にサークル間の「交流」も深めようという意識を促すことに努めてきました。

そのおかげで、「どうしたらもっと『交流』できるのかな?」と、自主的に考え実行する動きが出てきました。その一つが、陶芸サークル協議会（当時15サークル加入）が昨年行った「ミニギャラリートーク」（写真）です。サークルの垣根を越えて、来場者も交えて作者の話聞く試みです。それに加えて今回は、会場レイアウトを部門を越えて共に考えよう、会場設営も職員任せでなく、サークルも一緒に行おうと話が進んでいます。

これからも、参加する皆で展示会をつくり、盛り上げていくことができるよう、職員も熱い気持ちで働きかけていきたいです。

公民館であそぼっ！「ウキウキ土曜日」

酒々井町中央公民館 ☎043-496-5321



子どもたちに公民館に来てもらい、公民館を楽しんでもらおう。

その思いから企画した講座が、この「ウキウキ土曜日」です。開催は12月から2月までの土曜日で、全5回。小学生を対象とし、回ごとに募集をしました。多くの子どもたちが参加し、楽しんでいました。

12月はクリスマス飾りづくりとちぎり絵体験。自分たちでクリスマスツリー型の飾りをつくり、ちぎり絵も「楽しかった」と満足そうでした。

1月はマジック体験と昔ながらの遊び。「教えてもらったマジックを家族や友達に早く見せたい」とウキウキ。オリジナルのめんこをつくり、みんなで遊びました。2月は生け花体験。

講師は当公民館で活動しているサークルの皆さんです。普段活動していることを活かし、子どもたちとふれ合うなかで、教える楽しさを感じたようです。

この講座では、毎回最初の時間に、当公民館主催事業「カレッジコース」（町民大学）の生徒による、町の民話に関する紙芝居を上演しました。子どもたちは酒々井の地名の由来となったとされる「酒の井」や、台地の斜面にある横穴群、通称「カンカムロ」の紙芝居を見て、「『酒の井伝説』がよくわかった」「カンカムロがあることを知った」と、酒々井をより身近に感じたようです。また、カレッジコースの生徒達は紙芝居後「どうだった?」と気にかける一面もありました。

公民館職員と利用者が共に模索し、多くの方々に支えられ、今後も人気の講座になっていくのではないかと思います。

持ちより公民館だより

地域にとどく・生の演奏！「こもれびコンサート」

市川市柏井公民館 ☎047-338-2988



新年早々「今年の演奏会は何が聴けるかしら？」と窓口で声がかかるほど人気の講座に変身・・・。

毎年テーマを持ち、生の演奏を肌で感じていただくように始めた講座も7年の月日がたちました。市川市内16公民館の中で、もっとも交通の不便な所に位置する柏井公民館は、人が集まりにくい場所でしたので、年2回発行のミーティアムガイド（公民館主催講座の広報）の紙面上では魅力ある活字を載せ、お越しいただいた方がまた来たくなるような公民館講座にするべく力を注いできました。

軽快に始まるジャズやトーンチャイム（ハンドベル）、それぞれから奏でる音色は穏やかな心地良い

演奏です。市内の弘法寺で活躍する「手児奈和太鼓」は、館庭もおおいに活用して、お腹の中までズーンと響きわたるものでした。他にも琴、シャンソン、沖縄三線、ウクレレ、懐かしい日本の歌、バイオリンとピアノのコラボ、ギターデュオ、津軽三味線、民族楽器ケーナ・・・と毎回多彩です。

今年度はスコットランドの民族衣装を着たバグパイブ演奏と、のこぎり演奏家の第一人者「おぎ原まこと」さんをお招きしました。大小のこぎり刃を揺らしながら弾く音色に、聴衆は不思議かつ幻想的な世界に引き込まれていました。最後に「見上げてごらん夜の星を」を皆で合唱しました。至福のひと時を過ごせた参加者からの～ありがとう～の一言に、生の演奏会にこだわりを持ち、手作りのプログラムに最大限工夫をし、やり続けてきて良かったと思う瞬間でした。

出会い、会合、ミュージアムと気軽に利用できる場として地域の皆様に声掛けし、より多くの方に来館していただけるよう、これからも伝統、悠久、情熱ある演奏会をめざし、小さくとも元氣な公民館であり続けたいと思います。

みんなは一人のために・一人はみんなのために!!「九十九里町通学合宿」

九十九里町立中央公民館 ☎0475-76-4116



九十九里町通学合宿は通学合宿実行委員会により運営されており、各関係機関と支援ボランティア等大勢の地元の大人に支えられています。

公民館に寝泊まりをし、食事を作り、学習・遊びの計画を立て、公民館から学校に登校するという新鮮な体験をします。

食事は自分達で献立を作ります。予算に合わせて材料を検討し、メモと電卓を手に地元のスーパーで買い物をします。グループは4～6年生の数名で構成されており、お財布を預かった6年生や食事係の

児童の顔は真剣です。野菜は一つだと高いけど、袋詰めだと安い。でも、こんなにたくさんいらなし・・・。お肉はどの部位を買うのかな？1パックだと少ないけど、2パックでは多すぎる。合宿のタイムスケジュールが決まっていますから、時間も限られます。買い物を終えた子どもたちの感想は、「ドキドキしたけど、楽しかった。」です。

最終日は土曜日、お昼の食事を親子料理教室として、親子で調理し、一緒に食事をして終了となります。

通学合宿の間、公民館には子どもたちの元氣な声が響きます。3泊4日の通学合宿が終わる時、見守り続けた大人たちはお疲れ気味。でも子どもたちはまだまだ元氣で合宿をやり終えた充実感でいっぱいです。

今後は、通学合宿の経験を生かし、公民館として各世代間の交流を図れる主催事業を検討し、更にも多くの方々に利用される公民館をめざしていきたいと考えています。

公民館スタッフのつぶやきコーナー

館
長

魚を与えるのではなく・・・

銚子市民センター 所長 宮崎 勇二 さん



私の血液型はO型です。O型は、普段億劫であまりしたがない掃除など、どうしてもしなくてはならないような状況に自分を追い込む傾向にあるそうです。例えば、友達を家に呼ぶことにし、どうしても掃除をしなくてはならないような状況にしていくのがO型だそうです。私も、よくこの方法を使います。最近ではランニングです。以前はランニングにはまり、フルマラソンに挑戦するほど熱中していましたが、今はやめて6～7年になります。その後、ランニングを再開したかったのですが、なかなか踏ん切りがつかなかったため、同僚や家族に宣言して、始めなければならない状況を作りました。そして今、またマラソンレースに出られるようトレーニングをしています。

当市では、市民センターにおいて公民館の業務を行っており、毎週木曜日の朝、職員全員で事務連絡会議を実施しています。職員が、それぞれ1週間の予定や改善すべき問題などを提起し、利用者に必要なサービスが提供できるよう情報を共有し、お互いの意思疎通を図っています。これが非常に効果的であり、公民館としてのスムーズな運営に役買っていると思っています。

公民館の重要な業務の一つに団体の育成があります。私は、ある社会教育団体の事務を、長年市民センターで処理してきたことを知りました。本来、その団体が主体的に運営すべきところを、ある事情でその事務の殆どを処理していたため、団体の組織自体が形骸化してしまったという担当者の苦い経験を聞きました。中国の古いことわざに「魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教える」という教えがあります。人に魚をあげればその人を一日食べさせられ、魚のとり方を教えればその人が一生食べていくことができる。この場合の魚のとり方とは、処世術とか生きていく方法と考えられているようです。人に物を与えるよりも、物を得る手段を教える方が本当にその人のためになる。このように、公民館の仕事は、社会教育団体を育成するという使命を持って業務に当たるべきであり、それが公民館に求められていることだと思います。

施設の運営にかかる予算も年々減少している中で、いかに効率的な運営をしていくか、これからも模索しながら、職員一丸となって、市民の皆さんに愛される、利用しやすい施設にしていきたいと思っています。



自分も成長できる!? すばらしい学習施設「公民館」

職員 千葉市黒砂公民館 奥島 貴生 さん

私が勤務する黒砂公民館は京成千葉線みどり台駅から徒歩10分の閑静な住宅街の中にあります。隣には黒砂保育所、黒砂あおぞら公園があります。

館の設備は1階に事務室・ラウンジ・工芸室・和室・陶芸窯、2階に講堂・講習室・会議室・調理実習室、1・2階それぞれにトイレ・多目的トイレがあり、屋上には太陽光発電設備があります。駐車場は14台分（身障者用2台分を含む）あります。

私は、黒砂公民館に勤務して7年がたとうとしています。公民館に採用された時は20歳で、公民館を全く利用したことがなく、何をやる所なのか？というところから始まり、社会教育とは何？主催事業って何？と、右も左もわからないところからのスタートでした。

しかし、すばらしい公民館の先輩職員、上司、

利用者の皆様に支えられ、仕事を教えていただき、ひいては自分自身が少しは成長できたのかな？と思います。特に、1年目に教育係になっていただき、ご指導いただいた先輩職員の方々には、今でも大変感謝しております。今では、少しは公民館職員らしい仕事ができているのかなと思います。ただし、千葉市は財政状況が悪いので、少ない予算で最大限の結果を残そうと知恵を絞っていますが、何の事業を行うことが正解なのかわかりません。しかし、「あなたの身近な生涯学習施設“黒砂公民館”」をキャッチフレーズに、少しでも多くの市民の皆様に施設を知って利用していただきたいと願っております。来年度は、利用者の実数を増やすため、今まで一回も公民館を利用したことがない方を掘り起こしていきたいと考えております。

これからも、挨拶のキャッチボールを日々楽しみながら、仕事に邁進して参りたいと思います。

平成22年度

公民館総合補償制度

自治公民館を含むすべての公民館活動を支援する制度です。

市町村の公民館および自治公民館、また社会教育法に定められた「公民館の目的」に寄与するための施設は、名称を問わずご加入いただけます。

1. 行事傷害補償制度 [災害補償保険(公民館災害補償特約・熱中症危険担保特約)+共済見舞金]

- 公民館行事参加者のケガを補償します。
- 公民館利用者のケガを補償します。
- 行事準備中、行事往復途上のケガを補償します。
- 急性疾病死亡と公民館建物火災に共済見舞金を支給します。



●バレーボール大会参加者が転倒して負傷。

行事傷害補償制度のここがおすすめ

- 手続きが簡単!** ●年1回の加入手続きで年間行事が対象になり、個別の行事予定の通知は不要です。
- 対象者が広い!** ●親が参加する行事に同伴した同居の未就学児の往復途上も補償します。
●行事参加者や公民館利用者の居住地は問いません。
●公民館が公認するサークル活動の参加者も補償します。
- 補償範囲が広い!** ●日本国内であれば、行事の場所は問いません。 ※別に定める危険な運動中などは対象外です。
●公民館が参加者を事前に名簿で把握している場合は、往復途上も補償します。
●食中毒や熱中症も補償します。
●有償・無償を問わず公民館ボランティアや講師も補償します。
●宿泊をともなう行事も対象です。
- 掛金の割引あり!** ●同一市町村内で10館以上まとめて加入する場合には、掛金の割引制度があります。

補償例



●テントの張り方が悪く風で飛ばされ、行事来場者の車を破損。

2. 賠償責任補償制度 [賠償責任保険(施設所有管理者特約・昇降機特約)]

- 公民館の施設の欠陥や業務運営のミスにより第三者にケガをさせたり、物を破損し、公民館が法律上の賠償責任を負担した場合に補償します。

注) 公民館が使用または管理する財物への賠償事故などは対象になりません。

3. 職員災害補償制度 [普通傷害保険(就業中のみ危険担保特約)+共済見舞金]

- 公民館業務に携わる方の業務中のケガを補償します。
- 病気や業務外のケガに共済見舞金を支給します。



●職員が業務中に脚立から転落して負傷。

このご案内は、本制度の概要を説明したものです。詳しい内容につきましては「平成21年度版マニュアル 公民館総合補償制度の手引き」をご覧ください。また、本制度全般のお問い合わせ、資料請求等は、エコー保険サービスまたは損保ジャパンまでお寄せください。

■引受保険会社

株式会社 損害保険ジャパン
営業開発第一部第三課
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
TEL 03-3349-4037

■取扱代理店(お問い合わせ・資料請求先)

エコー保険サービス株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂1-3-18
TEL ☎0120-636-717
FAX ☎0120-226-916



シリーズ・県内の
元気館

～心豊かな暮らしを支援する地域の学習拠点～

我孫子市生涯学習センター **アビスタ**
TEL 04-7182-0515

我孫子市生涯学習センター「アビスタ」は、JR我孫子駅から10分ほど歩いた手賀沼のほとり、公園の緑に囲まれた場所に我孫子地区公民館と市民図書館の機能を併せ持った生涯学習複合施設として、平成14年4月に開館しました。

「アビスタ」というのは愛称で、アビ(コ)とスタ(ディ)、「我孫子で学習する」という意味です。生涯学習センターが、より市民に親しまれるよう愛称を市民から募集し、多数の中から市民投票で決定しました。

建物は3階建て。すべての市民に開かれた、親しみやすく、安全性に配慮した建築となっています。

1階は、南側に図書館、施設の総合案内や公民館の利用を行うインフォメーション、北側にホールや喫茶室、調理室、工芸工作室などがあり、その間を「ストリート」と呼ばれる長さ45メートル、高さ7メートルの吹き抜けの空間で結んでいます。ストリートにある壁面展示スペースは、日々の学習・活動の成果を発表する場としてご利用いただき、来館者の目も楽しませてくれます。また、子どもからお年寄りの方など、どなたでも利用しやすいようタッチパネル式のインターネットパソコンを設置(情報カウンター)しています。

図書館は、窓が大きく、白とクリーム色を基調とした明るい雰囲気の中で、ゆったりと落ち着いて本を探し、学習することができます。蔵書能力は開架10万冊、閉架13万冊。土、日、祝日も開館しており、夜8時まで利用できます。平日は約1,500人、土曜・休日は約2,500人の方に利用されています。

2階には、我孫子市の生涯学習施策を推進する「あびこ楽校協議会」の事務局と公民館、図書館職員の事務室があります。その他に、公民館部分として5つの学習室・ミニホール・2つの和室、託児室、授乳室、印刷室、交流スペースがあります。

学習室にはそれぞれ特徴があり、人数や目的に応じてグループ活動に利用することができます。

第1学習室は、平日は午後3時から、土曜・休日は午前9時から閉館まで、個人的に利用できる学習スペースとして開放しています。また、託児室では、公民館利用者が学習室などと併せて利用することができ、毎週水曜日の午前中は保育スタッフ(市民ボランティア)を配置し、センター利用者ならどなたでも子どもを預けられるよう体制を整えています。

さらに屋上は、緑地化されており公園の延長として活用できるようになっています。ここからは、手賀沼の眺望が堪能でき、市民の憩いの場としてアビスタの人気スポットのひとつとなっています。昨年度のアビスタ来館者数は延べ84万人、ひと月あたり7千人と、多くの市民に親しまれ、利用されています。



アビスタでは、我孫子地区公民館の主催事業として、現代的な課題を内容に、地域社会の一員としての意識を高めるための「市民カレッジ」、親子で楽しいふれあいをテーマとした「のびのび親子学級(2歳、3歳児コース)」、小学校1年生の保護者を対象とした「家庭教育学級」などが定期的に行われ、継続的、系統的な学習機会を市民の年齢層に合わせて提供しています。



あとがき

もう春の風が吹いてきておりますが、体の弱い私は季節の変わり目になると必ず風邪をひいてしまいます。公民館を最前線で支える皆様におかれましても、体調管理に注意して、体をご愛ください。

私が広報委員の役員となり、あっという間に1年がたっていました。これで任期の半分を終えたわけですが、果たして公民館活動のニュースを上手く伝えることができていたのか不安が尽きません。現在の公民館を取り巻く情勢は厳しいものとなっておりますが、公民館活動を少しでも盛り上げることができるよう、これからも努力してまいりたいと思います。(岩田)

ちばけん公民館スタッフニュース

編集：千葉県公民館連絡協議会 広報委員
委員長：野田 政実(千葉市草野公民館)

〒263-0051千葉市稲毛区園生町384-93

編集者：岩田 和久(富津市中央公民館)

〒293-0042富津市小久保2958-1

発行：千葉県公民館連絡協議会

印刷：株式会社 豊文堂